

建設技術が提供する安心

火災報知と避難・消火 設備設置義務付け

避難誘導

一方、消防法の場合だが、火災を発見して知らせるものとして、「警報装置」がある。これは自動火災報知機、住宅用火災警報機、非常用放送設備、ガス漏れ報知設備、火災通報装置、煙感知器、熱感知器などの種類がある。

この中で、自動火災報知機と火災通報装置は似ているが機能は違う。自動火災報知機は、感知器が付いていて自動的に建物の中にいる人たちに火災を知らせるものだが、火災通報装置は消防署に火災を知らせるのが目的で、手動が基本だ。この火災通報装置の中には、自動火災報知機と連動して自動的に消防署に火災を知らせるものもある。住宅用火災警報機はすべての住宅への設置が義務付けられた。また、非常用放送設備は、人が集まる施設に設置が義務付けられており、ガス漏れ報知設備は、消防法だけでなく建築基準法やLPガス法、ガス事業法などの法律でも設置が義務付けられている。煙感知器と熱感知器は主に天井に取り付けられているから、一般的にもよく目にするものである。

次に、避難させるということについては、非常用照明、避難はしご、救助袋・緩降機、誘導灯など、避難設備がある。非常用照明は、火災による停電が発生しても内蔵された蓄電池で点灯する照明で、これに対して誘導灯は、避難を誘導するためのものである。

ところで、これは白地に緑色のサインの「非常口の方向を示す」ものと、緑色に白地の「非常口を示す」ものの2種類があるのにお気づきだろうか。

つまり、非常時に白地に緑色のサインのものを掲げておくと安心でき、非常用照明、普段は消灯している誘導灯、非常口はただ先にある非常口はここに



プラスチック可燃物増加 スプリンクラーが有効

大手ゼネコンの共同研究によると、「最近のオフィスビルにおける可燃物の特徴として、パソコンやローパーティションなどが普及し、プラスチック系の可燃物が増大している」という。そして

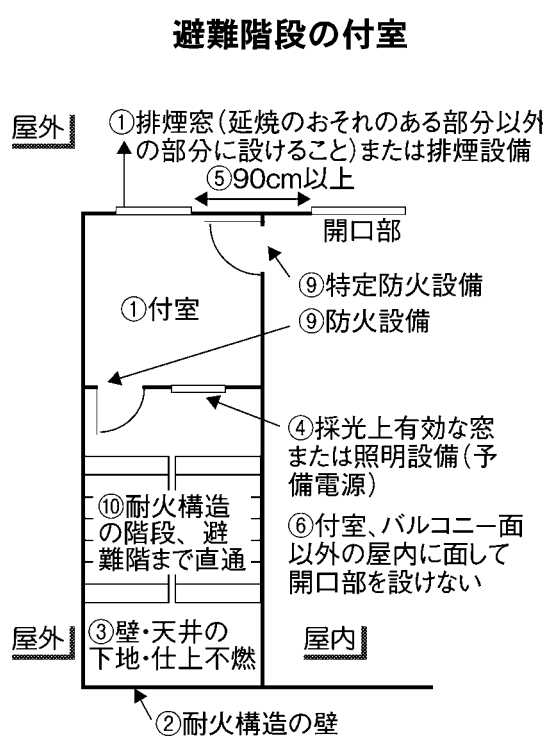
「初期火災安全設計に可燃物の量や表面積に加え、パソコンなどのプラスチック系可燃物の多寡、机周辺の配置パターンが大きく影響する」とし、「現行水量のスプリンクラーの火災抑制能力は、机四つ程度の範囲」とされることから、「スプリンクラーを適切に配備すれば、火災は出火場所にとどまり、いわゆる局所火災(ぼや)で抑制される可能性が極めて大きくなる」とが判断された。これは「窓先空地(まださきくち)」(表2)である。これは、敷地が狭くて外に逃げにくいケースに対応したもので、マンションなどの共同住宅の敷地のうち、1階の住戸の窓に直面する敷地部分に幅員数分の空地を設け、その空地を避難経路として利用できるようにしたものだ。また、これは採光の確保という意味合いもある。

東京都や横浜など一部の自治体で実施されている制度であるため、一般化はしていません。マンションの設計の際、設計士がこの窓先空地を考慮しなかつたため、恥をかいたケースもあるという。(次ページに続く)

日米の違い

火災に対する考え方は国によっても特徴があり、たとえば米国の場合は「避難の時間を重視している」といって、日本の場合は「避難の時間を短くする」といって、重点を置いている。これに対し、日本の場

合は、前述のように防火区画で決めている。つまり、燃え難くして避難の時間を稼ぐ。この日米の考え方を比較した場合、どうも日本の考え方のほうが良いような気がする。人間の避難する速さについて、往々にして火と煙のほうが速いことがあるからだ。例えば、米国のこの考え方に基づいてつくられた台湾・台北の桃園空港で火災が発生したことが



消火活動

消火活動は、用途や部屋の広さに応じて国家認定を受けたものの設置が要求されており、屋内消火栓は消火栓、ホース、筒先などが箱に収められた形で設置されているから、大方の人は目にしていない。非常用コンセントは、11階以上の建物や延べ床面積が1000平方メートル以上の建物に設置が義務付けられているもので、消火活動の器具用に使われ、耐火配線が用いられており、蓄電池や自家発電装置から電気を供給している。スプリンクラーは、初期消火には非常に効果を発揮するものとされている。



あつたが、この時はビルの中を熱風が吹きすさび短時間で内部が丸焼けになった。これなどは、日本のように区画で区切ったほうがよかった」とされるケースである。

若い設計士などが意外と見落とすケースが見受けられたのが、「窓先空地(まださきくち)」(表2)である。これは、敷地が狭くて外に逃げにくいケースに対応したもので、マンションなどの共同住宅の敷地のうち、1階の住戸の窓に直面する敷地部分に幅員数分の空地を設け、その空地を避難経路として利用できるようにしたものだ。また、これは採光の確保という意味合いもある。



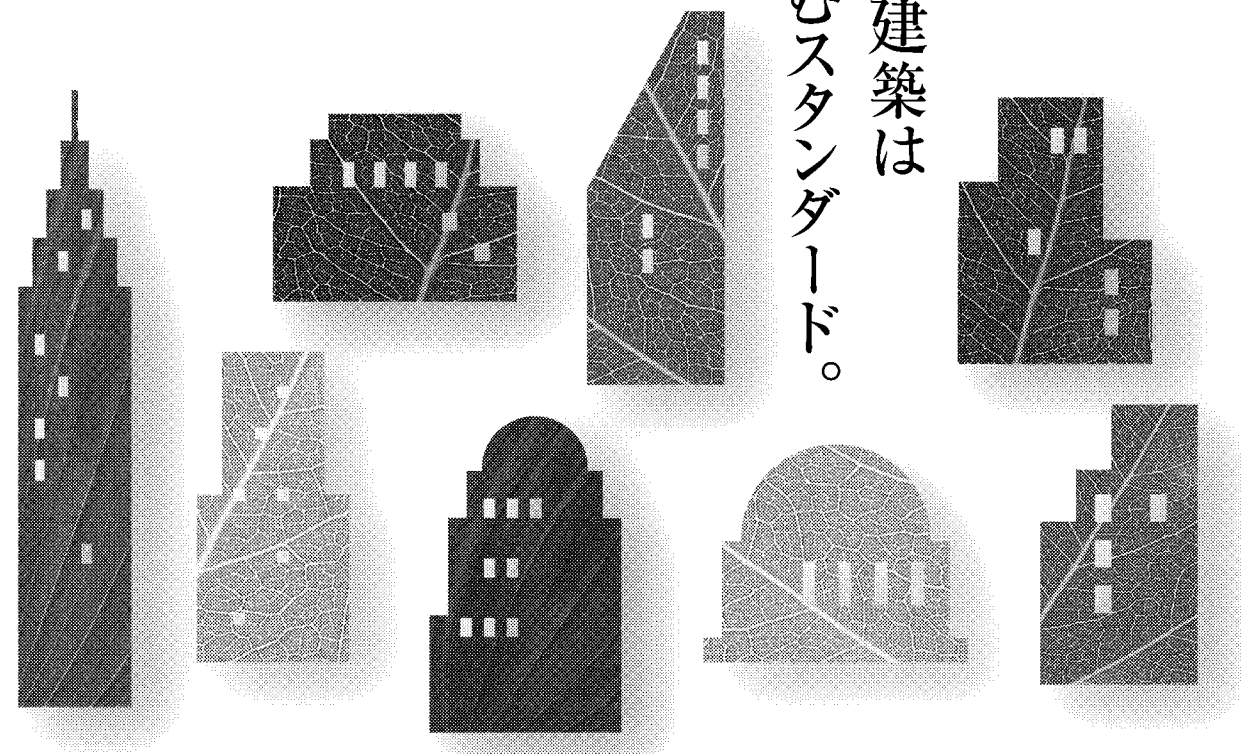
いいマンションには、いい心が住んでいる。

長谷工の「ロングクオリティ・マンション」

いいものごとは、いい心が作っていく。マンションにとって「建物の品質」はもちろん大切ですが、そのマンションでの「生活の品質」もまた大切なこと。長谷工のロングクオリティ・マンション、それは「品質のいいマンションを作って、それをさらにいいマンションに育て、そして次の世代へつないでいく。」という考え方のマンションのこと。地球の環境にとってもいいマンションです。私たち長谷工は、いいマンションを作りながら、いっしょに、いい社会を作っていく。

いい暮らしを、創る。
住まいのオンリーワングループ
長谷工 コーポレーション
HASEKO http://www.haseko.co.jp

TAKENAKA CORPORATION



サステナブル建築は地球がのぞむスタンダード。

SUSTAINABLE WORKS®

サステナブル・ワークス

持続可能な社会を未来へ

例えば、生物多様性の保全、資源循環の推進、地球温暖化対策……。美しい地球を未来の子供たちに遺すため、建築に課せられたテーマは、たくさんあります。私たちは、皆さまのパートナーとしてサステナブルな社会を、一緒に築き上げたいと願っています。

想いをかたちに



お問い合わせは 広報部へ
〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目1-1 Tel. 03(681)05140
〒541-0053 大阪府中央区本町4丁目1-13 Tel. 06(6263)5605